

【授業の到達目標および概要】

授業の到達目標と概要：①地球規模の健康問題に関わる背景を解説し科目の全体像を把握する。②人間活動と地球環境の相互作用に関する包括的な視点を解説し、国際的な安全・疾病対策の仕組の現状を明らかにする。③演習を通じて国際保健学の基礎概念を理解する。

上記の目標に向けて、途上国の保健・医療と生活支援に関わる国際的な公衆衛生活動を進める上で必要な基礎概念と方法論について講義および文献講読等演習を行う。

【授業計画】

- ① テーマ、概論：国際保健活動の歴史と国際保健学—地球規模の健康問題と公衆衛生活動の背景とその隣接領域について解説する。
- ② 概論：人口問題と保健—経済・文化社会学的背景について解説する。
- ③ 各論：国際保健活動について—その目的、主体と対象、方法論、評価手法について解説する
- ④ 各論：国際疾病予防活動の諸側面—地球規模の人間活動と熱帯医学・地理医学など疾病対策の事例紹介と解説する
- ⑤ 各論：国際母子新生児保健—特に途上国での女性と新生児・幼児の保健について解説する
- ⑥⑦ 各論・演習：途上国の栄養問題と健康増進—途上国に特徴的な栄養障害と対策について解説し、配布資料をもとに演習を行う。
- ⑧⑨ 各論・演習：先進国の栄養問題と健康増進—先進国での栄養障害と対策について解説し、配布資料をもとに演習を行う。
- ⑩ 各論：地球環境、開発と保健—地球規模での疾病流行および災害対策について解説する。
- ⑪ 各論：日本の国際保健協力事例—日本の国際協力の仕組と事例について解説する。
- ⑫ 討論と総括—学習内容の確認を行う。
- ⑬～⑮ まとめ

【授業外学習】

任意の参考書について自主的に通読する。

事前に配布されたプリントに関し、専門用語の意味などを理解しておく。

毎回の授業終了後に示す課題について学習ノートを作成する。

【成績評価の方法・基準】

出席状況、討論への参加と演習課題についてのレポート提出により評価を行う。

【教科書】

随時プリントを配布する。

【参考書】

和文：小泉明・兜真徳編著『地球規模の健康問題・地球環境保健学序説-』てらぺいあ，郡司篤晃編『テキストブック国際保健』日本評論社，小早川隆敏編『国際保健医療協力入門』国際協力出版会，日本医療国際保健医療学会編『医国際保健医療学』杏林書院，国立国際医療センター編著『国際保健医療協力ハンドブック』国際開発ジャーナル，中村安秀『国際保健医療のお仕事』南山堂

欧文：A-E. Birn et al. eds. “Textbook of International Health 3rd ed.” Oxford UP, Michael H. Merson et al. eds. “International Public Health 2nd ed.” Jones & Bartlett Publishers, C. Everett Koop ed. “Critical Issues in Global Health” Jossey-Bass, Lincoln C. Chen ed. “Global Health Challenge for Human Security” Harvard UP